

今日から大齋節に入ります。毎年同じことを言っているのですが、大齋節のことを話します。聖公会はこの呼び方を続けていますが、四旬節という言い方が一般的になってきました。

四旬節とは、40日という意味です。1ヶ月を上旬、中旬、下旬と三つに分けるのは、最初の10日間。真ん中の10日間、そして最後の10日間という意味ですね。今年の大齋節は3月5日水曜日から、4月19日土曜日までで、数えたら46日あります。しかし、日曜日は、イエス様の復活の日だから、ということで、期間中の6回の日曜日は数えないで、40日ということになったわけです。

さて、大齋始日は、毎年マタイによる福音書の中に書かれた、施しと祈りと断食をする時の心得のところを読むことになっていますので、今も私はそれを読みました。これを読んでいると、何度も同じ言葉が繰り返されるので、みなさんもよく覚えておられるでしょう。

人に見せるために、施しや祈りや断食などの善行を行ったのでは、彼らは既に、人々から報いを受けてしまっている。人に気づかれないように行うことで、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる、というお話です。

そして、これらのまとめとして、地上に富を積んではならない。富は天に積みなさい。ということになります。つまり、施しや祈りや断食が、人々からほめられても、そんなこの世の富は、腐ってなくなってしまう。そんな人の評判を良くしようとするのではなく、神様からほめていただけるように努力しなさい。そうすれば天に積まれた富は、なくなることがない、と教えるわけです。

もちろん、神様のために良いことを行うことが、結果的には、人々からも賞賛されることになったら、それ自体は悪くはありません。しかし、人間は弱いので、人々から褒められると、だんだん神様のために善行を行うのではなく、人々から褒められたいために、それをするようになってしまうのです。

そのことを良く知っている、マタイによる福音書を編集した人は、人目につかないようにして、善行をしなさい、と勧めるわけですね。

これらの善行を行う行動の根拠と言いましょくか、大切なことは、悔い改め、ということです。今まで間違った方向に歩いていた者が、立ち止まり、正しい方向に向きなおして、歩みだすことを悔い改めと言います。

間違っていたことを、ただ反省しても、それによって方向を変えて歩みだす行動がなければ、同じ間違いを続けることになりやすいのです。

さて、それでは、大齋節に何をするのか、ということですが、私は詩編を唱えることにしたいのです。6年前、新しく出版された聖書。聖書協会共同訳についての説明会が宮崎の日本基督教団の教会で開かれたので、出席しました。いろいろ疑問に思っていることを聞くことができ、有意義な勉強でした。

そんな中で、講師の先生が、最近のことを話されました。講師はプロテスタントの旧約聖書の学者でしたが、先日、もう退職された大司教さん、つまりカトリックの聖職を訪ねたそうです。すると、カトリックの聖職は、毎日読む聖書の箇所が決まっているのでみんな聖書を毎日欠かさず読んでいる、というのです。また、プロテスタントの退職した牧師さんのひとりは、12月に新しい聖書がでたら、暇だったので、1ヶ月余りの期間に新しい聖書を一通り読んだ、というのです。

私自身は、説教を作ったりするために聖書を読むことは行っていますが、万遍なく読むということは、しなくなりました。思い出すのは、私がまだ神学生の頃です。その頃は、文語の祈祷書の時代で、祈祷書の最後に、150編ある詩編を1ヶ月に割り振って、1日早祷、1～5編、1日晚祷6～8編という具合に割り振られていました。それで、私も先日、今の祈祷書の最後にある詩編の部分に、1日朝、1日夕、というかたちで、150編を分けることにしました。

もちろん、現在の日課表に従って、朝夕の礼拝で詩編を唱えることもできますが、読む詩編の数が少なく、また、順番に並んでいないので、「今日はどこだろう」と探してばかりで、詩編の全体の流れがつかめないうえ、印象に残らないのです。

実は、去年の終わりごろ、子どもの頃から世話になっていた神戸教区の退職した司祭が、急に心臓発作で入院。そして心臓の手術をしました。そして年末に無事退院できたのですが、生まれて初めてクリスマスを病院で過ごすことになった、と言って、その時の体験を文章にまとめていました。そして感心したのは、その体験の最後に、聖書の言葉、特に詩編の、私などあまり知らない聖書の言葉を引用しておられました。この先生は聖書が身についているんだなあ、と感心したことでした。

ユダヤ教の人たちは、1年かけて、モーセ5書という、旧約聖書の最初の創世記から申命記を礼拝で読むことになっています。また、先日聖書の説明会に行った、会場の日本基督教団宮崎教会では、2月中に毎日聖書を読むように、その箇所が教会の月報に載っていました。

だから私は、せめて、月1回は詩編を150編唱える習慣をつけたいと思ったのです。

聖書を読むことから離れていたことを反省して、具体的に行動に現していきたいと思ったことでした。

＊ 6年前の説教の焼き直しです。